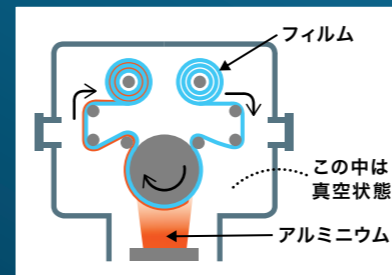


【水引】



■ アルミ蒸着フィルムの製造方法



水引には、アルミ箔(厚さ10μm程度)やアルミ蒸着フィルムなどが使われる。蒸着とは、真空装置内で高純度の金属を蒸発させ、フィルムの表面に膜を作る技術。アルミ蒸着フィルムは包装材やファッション素材などに広く使われている。

■ いろいろな水引

金赤水引

金側と赤側の別々の水引を接着したもので、金側の材質はアルミ箔。重みのある金が印象的であり、お札やお守りなどにも使用される。



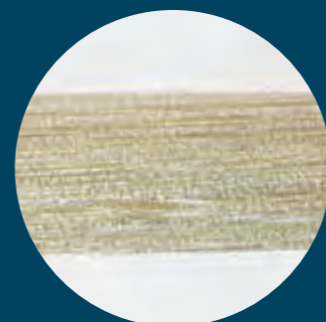
特光金銀水引

紙芯の上をアルミ蒸着フィルムで覆っている。水引の表面は、鏡のように金属的な光沢を持っている。



錦(白淡金)

紙芯の上に着色したアルミ蒸着フィルムが巻かれている。紙芯は白ばかりでなく、色が付いたものもある。



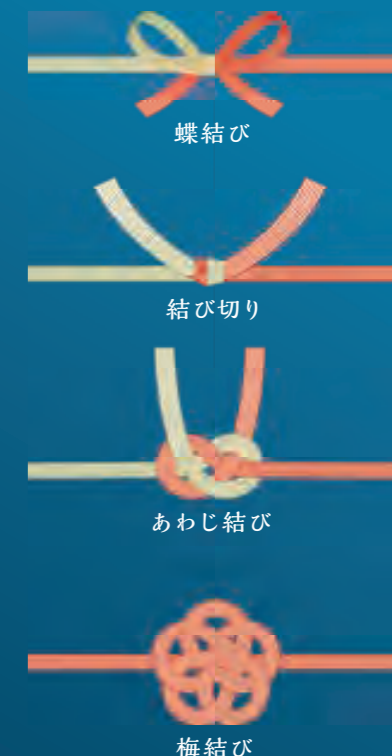
みやこ(紅色)

飾糸と金銀糸を巻き付けた水引。純和風の落ち着いた美しさを醸し出す。



京色(月白)

金や銀のアルミ箔の上に、飾糸が巻かれている。ランダムに巻いた飾糸の下で、時折、キラッとアルミ箔が光るのが美しい。



結ぶ思いを込めて

水引の起こりは、飛鳥時代にまで遡ります。607年、推古天皇の遣隋使小野妹子が隋から贈り物を持ち帰りました。それには海路の平穩無事を祈願して、紅白に染め分けた麻の紐が結ばれており、それ以降、宮廷への献上品は紅白の麻の紐で結ぶのが慣例となったと言われています。

水引の代表的な産地の一つが京都です。金や

銀の水引は、以前は、アルミ箔を手作業で紙に貼りつけ、細長く切って、さらに手作業で、紙縫りへ巻きつけ水引を生産していました。1958年にアルミ蒸着フィルムの製造が開始され、それ以降に生産の機械化が進みました。現在の水引は、パルプを原料とした機械すき和紙で紙芯を作り、これを着色したり、アルミ箔や蒸着フィルム、飾糸などを巻くなどの加工を施して作られます。

洗練された日本の美に触れる

伝統工芸のように思われる水引ですが、私たちの生活の中でも多くの水引に出会うことができます。

その一つが祝儀袋です。日本には、昔から金銭を直接贈ることを避け、和紙で包み水引で整える文化があります。またお正月の飾りであるしめ飾りや鏡餅などにも、水引飾りが欠かせません。さらに豪華な水引は、結納品を取り交わす時に使われます。

最近では、水引の魅力に注目したアート作品がSNSで紹介されるようになってきました。アクセサリやインテリアなどを手掛けるアーティストも多く、水引を使って自分だけのアクセサリを作る教室も人気を集めています。さまざまな表現が広がる水引は、洗練された日本の美をこれからも私たちに見せてくれることでしょう。

取材協力: (株)さん・おいけ <http://www.sun-oike.co.jp/>